

<山行記録>

妙高山 (2,454m)

日時：2012. 7. 25 (水)

岡本

<コースタイム>

5:35 燕温泉駐車場→6:12 赤倉温泉源湯→6:35 四合目麻平分岐→6:53→7:17 天狗平→
7:35 光善寺池→8:10 くさり場下→8:35 十合目→8:44 頂上 (9:05 出発) →9:43 大蔵分岐
→10:03 長助池→11:21 大蔵沢出合→11:45 麻平分岐→12:02 一般道出合→12:15 駐車場
所要時間 6 時間 40 分 (休憩除き 6 時間)

高校1年のワングルの夏合宿の時、途中で病人が出たため登れなかった山だ。爾来、何度も計画したが、何故か機会に恵まれず登れなかった因縁の山である。

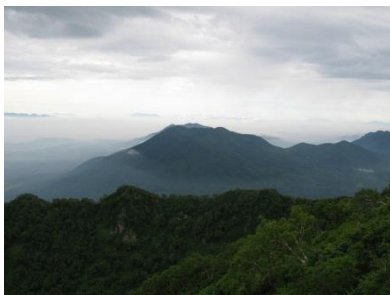
前夜、11時30分に家を出る。目的地の燕温泉までは500km強あるが、深夜でもあり5時20分位に到着、早速準備し、5時35分に出発した。最初の車道が結構きつい。地図を見るとわずかな距離で標高差150mも登っている。赤倉温泉の源湯が過ぎた辺りから登山道になるが、谷コースで展望は開けない。前方に称明滝と光明滝が見えて来る。この脇を登り、北地獄谷の沢を越えると麻平との分岐に着く。途中で蛇の脱皮の跡やヒルがいる。この辺りは要注意の場所だ。



水分補給をして暫く行くと雪渓がある。の辺りはまだ標高1600m余りだが、流石に豪雪地帯だけのことはある。ここからの冷えた空気を含む風が心地よい。この心地よさが幸せな気分にしてくれる。この雪渓を登っていくと脇に胸突き八丁の表示がある。標識に従い沢を外れ斜面を登り尾根に出る。急な登りではあるが200m弱の登りであり、それ程の負担感はない。尾根を登り切ると天狗平だ。それ程の

展望は望めないが、ここから尾根コースになる。

天狗平から暫く樹林帯の中を歩く。少し行けば光善寺池(2,070m)があり、そこを過ぎると徐々に展望が開ける。今日は生憎の天気のため、それ程綺麗には見えないが、東には野尻湖とその向こうに志賀から上越の山々が望め、



南には黒姫山や八ヶ岳、遠くには富士山も見える。風も心地よい。



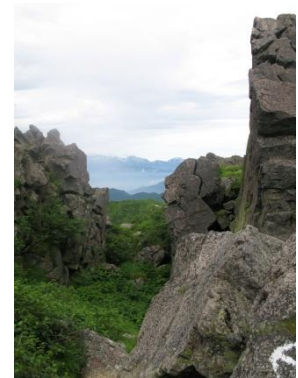
更に進んでいくと鎖場になる。ここまで来ると頂上までもう一息だ。鎖場と言うものの、岩も滑りにくく、足場となる窪みなどもあり、鎖が無くとも容易に登れそうな道だ。この辺りに来ると、今までと違い東・南方面の展望が素晴らしい。しかし、景色に見とれていると、流石に岩場だけあり一歩踏み外すと助からない。野尻湖や斑尾山を見ながら更に登っていくと、頂上一帯を占める溶岩帯に出る。火山岩の急な岩場を登り詰めると、そこに十合目の標識がある。

頂上は溶岩台地状に広がっており、十合目は妙高大神付近だ。妙高山頂標識のある場所とは少し離れている。途中は大きな火山岩が続いており、その中を縫うように進む。今までと違い寒い位の風が吹く、が、汗びっしょりの体には心地よい。



頂上一帯は360度の大パノラマだ。火打山や焼山も綺麗に見える。遠くには北アルプス、また、八ヶ岳や上越の山々も雲に霞みながら幻想的に望まれる。景色を楽しみながら標識のある頂上を目指す。

頂上に着くと、まだ9時過ぎと言うのにガスがどんどん上がってくる。午後から天気が悪くなる予の為、行動食を取り、少し景色を楽しんだ後、直ぐに下山する。下山路は燕新道を取る。



燕新道は、山頂からいきなり火山岩に苔が付いた滑り易い急な坂道だ。途中、小さな雪渓が残っており、それを過ぎると大倉乗越と燕新道との分岐に出る。分岐からは、沢と小さな池塘の続く道で、ドロドロ道だ。途中の岩にヒルも付いていた、蛇もいる。十分慎重に歩く。少し行くと長助池だ。



ここは、池全体が池塘のようで、ワタスゲの花が満開だ。木道の中程に少し広い場所があり、ベンチがある。下山路でここだけが広い空間のある場所で、爽やかな風も感じられる気持ちのいい場所だ。少し休憩して歩き始める。が、天気は徐々に悪くなって来る。時々小雨も感じられるが、大きくは崩れることは無さそうだ。

この燕新道は、笹を刈ったりある程度の整備しているが、全体として道の状態は余り良くない。ぬかるんでいるし、滑り易い所も多い。おまけにどぐる巻いた蛇もこちらを睨む。顔は意外にかわいい、が、兎も角、足下に注意してどんどん進んでいくしかない。沢道の笹などの多い樹林帯の中で、景色も殆ど見えない、蒸し暑い道である。

この燕新道は、笹を刈ったりある程度の整備している



急な下りを降りると大倉沢に出る。河原も広く、冷たい雪渓からの水も流れており、流石にここには心地よい風が吹く。少し休憩して麻平への道を取る。一つ尾根筋を越える為、少し登りが続く。麻平は、登りに通った燕登山道とこの新道との間を分かち尾根の少し燕登山道寄りのところにある。ここを過ぎ、少し急な坂を下れば燕温泉まで直ぐだ。しかし、急な下り道の整備状況は余り良くなく、気を抜くと滑りそうだ。鋼鉄製の吊り橋を渡ると車も通行可能な道になる。しかし、まだこの辺りにも雪が残っている。残雪を見ながら少し歩くと燕温泉だ。少し疲れる下山路であったが、長年の懸案が片付いた喜びを感じながら、奈良まで500km余り距離を引き返す。

以上